

会 議 録 (案)

(1 / 7)

会議の名称	平成27年度第2回川越市立美術館協議会
開催日時	平成28年 2月12日 (金) 午後 3時00分 開会 ・午後 4時15分 閉会
開催場所	川越市立美術館会議室
議長 (委員長・会長) 氏名	会 長 可 児 一 男
出席者 (委員) 氏名 (人数)	副会長 宮 澤 光 造 委 員 松 岡 滋 委 員 梅 津 元 委 員 井 口 修 一 委 員 高 橋 康 夫 委 員 吉 田 実 (6名)
欠席者 (委員) 氏名 (人数)	委 員 高 杉 雅 章 委 員 小 山 昭 三 (2名)
事務局職員 職 氏 名	館 長 上 野 正 主 幹 谷 平 絵美子 副主幹 永 島 芳 典 主 査 折 井 貴 恵
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 平成27年度事業報告 (2) 平成28年度事業計画 (3) その他 4 閉会
配布資料	・ 次第、川越市立美術館協議会委員名簿 ・ 資料1-1 川越市立美術館データ表 川越市立美術館特別展記録 ・ 資料1-2 アンケート集計表 ・ 資料1-3 K a r t - N E W S ・ 資料2 平成28年度展示予定

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
館長	1 開会 本日の協議会は委員の過半数が出席しているので、川越市立美術館条例に基づき、会議が成立することを報告いたします。
会長	2 あいさつ 本日は今年度2回目の協議会となる。美術館はスタッフが少ない中、特別展、常設展等の開催、準備も含めて一生懸命やっていると理解している。当協議会については、今後、新しい世代の意見を反映していくことも必要と考えている。
館長	協議会の議事進行については、川越市立美術館条例に基づき、会長にお願いします。
議長（会長）	3 議題 (1) 平成27年度事業報告について、事務局から報告及び説明願います。
館長	資料1-1、1-2について、報告及び説明を行う。
主幹	資料1-3について、報告及び説明を行う。
議長（会長）	質問、意見等ありますか。
梅津委員	秋季特別展「ペインティングの現在」の観覧者数が4,550人で少ないという説明があったが、私は決して少ないとは思わない。埼玉県立近代美術館でも現代作家を特集した展覧会は6,000人程度である。単に特別展の観覧者数を比較するのではなく、展覧会ごとに観覧者数の目標を決めて、それに向けた努力を行う方が良いと考える。
議長（会長）	私も埼玉県西部地域にこのような現代作家がいるということはこの展覧会で初めて知った。貴重な展覧会であったと感じている。

吉田委員	<p>「ペインティングの現在」については、様々な世代の現代作家を紹介し、直接本人の話を聴くことができる機会もあって、現在の平面作品の状況を上手に紹介していたと思う。残念なことは、もう少し若い世代、特に20代の方々にもっと観てもらいたかったし、美術館に来てもらうきっかけになる展覧会だったと思う。来年度夏季特別展で川島清氏を取り上げる予定とのことで、今年度は平面作品、来年度は立体作品という企画の立て方は非常に良いと思う。</p>
議長（会長）	<p>個人的に美術館鑑賞定期券「えみるか」を知り合い等に購入していただいているが、そうした中で、美術に関して無関心な層は三割程度と思っている。そうした層を含めた、来館する全ての人に楽しいと思ってもらえる展示をすることが必要と思っている。</p>
館長	<p>公立美術館なので、観覧料だけで運営するのは困難ですが、来館者数を増やすことはひとつの目標であり、そのための努力や工夫をしていきたいと考えています。特に、年間を通じてバランスの良い展覧会を開催していきたいと思っています。</p>
議長（会長）	<p>(2) 平成28年度事業計画について、事務局から説明願います。</p>
主査	<p>資料2について説明を行う。</p>
議長（会長）	<p>質問、意見等ありますか。</p>
高橋委員	<p>議題(1)に戻るかと思うが、美術館鑑賞定期券「えみるか」のPRを積極的に行った方がいいと思っている。資料1-2のアンケート結果から特別展の観覧者はポスターやチラシを見て知るといことが多い。したがって、そうしたポスター等に「えみるか」の紹介を入れてみると反応があると思う。また、アンケートの項目で、職員についてよくないと感じたことを聞かせてほしいという回答の中で、「偉そうな人はとても偉そう。」とあるが、これは一体どういうことなのかわからないが、川越市は多くの観光客が訪れるので、こうした印象を与えてしまうのは、誠に残念なことである。美術館はサービス業であり、接待するという視点を大切にしたい方がいい。多くの観光客に川越の美術館は</p>

	<p>良いという評価を得られるようにしていただきたい。</p>
副主幹	<p>「えみるか」については、今後、広報川越で周知できるか研究していきたいと考えております。</p>
松岡委員	<p>市内在住の作家は多いと思われる。今後そうした方々を掘り起こして、取り上げていただきたい。川越市で生まれ育った方だけでなく、川越市に引っ越してきた作家もいるのではないか。</p>
議長（会長）	<p>冬季特別展の「この絵、私が持ってました。」というタイトルが面白い。来年度もタイトルを工夫してみてもどうか。</p>
主査	<p>来年度夏季特別展は副題的なものを考えており、秋季特別展についても考えております。</p>
館長	<p>冬季特別展はコレクターを取り上げていますが、学芸員がタイトルを工夫して、作品を補うような恰好となっています。</p>
宮澤副会長	<p>来年度夏季特別展の川島清氏と川越市立美術館の関わりを教えてほしい。</p>
主査	<p>ギャラリー東京ユマニテで年2回個展を開催している作家であります。現代美術を中心としたコレクションを展開しているいわき市立美術館が川島氏と交流があり、いわき市立美術館が川島氏の巡回展を開催したいという意向を知り、川島氏が川越市内にアトリエを構えていることから、共同で開催する方向で進めることとなりました。</p>
松岡委員	<p>共同開催というのは、費用面で安くなるのか。</p>
主査	<p>作品にかかる保険料及び図録製作費のコストが下がります。輸送に関しては、折半をせずにそれぞれ実費負担を行う方向でコストを下げられればと思っています。</p>
松岡委員	<p>来年度秋季特別展「池田幹雄×滝沢具幸（仮）」の2人展は珍しいと思うが、ポイントを教えてほしい。</p>

主査	<p>お二人がこれまで歩んでこられた歴史の中で、重なる部分があり、展示を通じてそれをお示しできたらと考えています。初期から最近の作品、各時代の代表作を揃え、作品が大きいので、量は限られてくると思いますが、回顧展的な内容になると考えています。</p>
松岡委員	<p>来年度冬季特別展「猫まみれ展」のポイントを教えてください。</p>
主査	<p>本展は、秋田県立美術館で開催したものと同じ内容です。猫を対象とした作品なので、小さな絵を数多く展示することになり、量でみせるという感じになると思います。近現代絵画、版画、立体、浮世絵など、多彩な内容となっており、現在、神戸ゆかりの美術館で開催しています。</p>
議長（会長）	<p>来年度冬季特別展開催期間中の2月22日は猫の日にちなみ、例えば観覧料無料にするなど、工夫してみてもどうか。</p>
館長	<p>観覧料を無料にすると入館者数は増加します。たとえば今年度秋季特別展「ペインティングの現在」開催期間中、県民の日、市民の日、12月の第1日曜日が無料でしたので、入館者が増えました。また、春と秋に市内小学校のバス見学もあり、それに伴って入館者が増えたということもありました。</p>
松岡委員	<p>来年度冬季特別展では、絵画、版画などがあるとのことだが、メインになる作品はあるのか。</p>
主査	<p>例えば、藤田嗣治、竹久夢二、猪熊弦一郎などが挙げられます。</p>
松岡委員	<p>チラシやポスターに、そうした有名作家の作品を入れた方がいいと思う。</p>
宮澤副会長	<p>大作を載せるのもひとつの手法だが、小さな絵を数多くちりばめて載せる方法も良いと思う。</p>
議長（会長）	<p>平成29年度以降、予定しているものはありますか。</p>

主査	現在のところ全く未定ですが、平成30年度は相原求一郎生誕100年、没後20年にあたるので、開館以来となる相原展を開催できればと考えております。
議長（会長）	作品は借用するのですか。
主査	借用します。
松岡委員	相原求一郎作品を所蔵する個人のコレクターも多い。
主査	また、埼玉県西部地域の作家で、日本を代表する銅版画家の中林忠良氏や平成29年度に生誕130年を迎える小村雪岱なども考えていきたいと思います。
議長（会長）	埼玉県立近代美術館から作品を借用できれば費用はかからないのでは。
梅津委員	それぞれの館が共通のテーマを決めて、共同で展覧会を開催するなどして、貸し借りできればいいと思う。
井口委員	特別展は、予算と物とニーズが合致した分、それに見合った結果がでる。夏季特別展は、子供を対象とした内容がいい。美術館は子どもに来てもらう使命があると考えている。
議長（会長）	今年度夏季特別展はどうでしたか。
主査	館として立てた目標1万人を超えませんでした。市内小学生全員にチラシを配り、観覧者からも好評でしたが、猛暑の影響で美術館までの足が遠のいたものと分析しています。平成22年度夏季特別展の竹久夢二も猛暑により観覧者数が伸びなかったという例もあります。
議長（会長）	現在開催している「川越百景絵画展」の観覧者数はどうですか。
主幹	200点の作品を展示しており、1,000人程度を見込んでいます。
宮澤副会長	タッチアートコーナーは、実際に触れることができない

梅津委員	<p>作品も多い。作家に展示を依頼する際、触れることができる作品を展示してほしいとお願いすべきである。</p> <p>現在開催している「この絵、私が持ってました。」を観たが、とてもおもしろい。安齊羊造氏の生い立ち、親、兄弟、親戚、さらに作品を所蔵していた関係者にも焦点を当て、歴史的、社会的なエピソードを浮かび上がらせる。美術に関心がある方だけを前提にした展示ではなく、様々な角度から光を当てており、歴史や文化に興味のある方々にも楽しめる仕掛けとなっている。展示は見せ方の組み合わせを変えることによって、いろいろな可能性が出てくる。今回の展覧会の作り方は非常に良いと感じた。</p>
吉田委員	<p>作家がこれまでどのように美術に関わってきたのか、表現し続けてきたのかということ展示のポイントにしてもらいたいと思っている。「ペインティングの現在」では、作家自らがそうしたことを話し、観覧者が直接聴ける機会があった。今後も美術館は作家と観覧者の間に立って、そのような機会を積極的に設けてほしい。おそらく作家にとっても貴重な機会になるのではないかと思う。</p>
高橋委員	<p>「ペインティングの現在」は、作家と作品を身近に感じることができた。川越の未来を担う大人、つまり市内の小学生が作家と触れ合い、つながりを持つ機会を設けることが大事であると思った。</p>
主幹	<p>「ペインティングの現在」では、開催期間中2人の作家に、子どもを対象としたワークショップの講師をしていただきました。また、バス見学で美術館に来る市内小学校には事前に展示作品の資料を渡し、タイトル等を考えてもらった上で、美術館で本物を観てもらおうということも実施しました。</p>
高橋委員	<p>地元の高校、中学校とのパイプを強くして、連携していくことも必要と思う。</p>
議長（会長）	<p>(3) その他 無いようなので、これで議事を終了します。</p> <p>4 閉会</p>

